



2026年

新年特別号

新年の挨拶

社会福祉法人日本心身障害児協会
理事長 藤井 康弘

新年明けましておめでとうございます。
私たち島田療育センターはこれまで60数年の間、この国の障害福祉の先駆けの一つとして、重度心身障害児者を中心に、その支援を担ってきました。本年も、そうした誇りを胸に、入所利用者、地域の利用者のご支援に邁進していきたいと、気持ちを新たにしております。

私も昨年着任して半年が経過しましたが、本年は、センターの収益の改善と利用者支援の拡充に取り組みつつ、着々と進んでいる新棟の建築に期待を膨らませながら、これを一つの大きな武器として、今後このセンターがどのように飛躍をとげられるのか、再び前進するために何が必要なのかを職員の皆さんとともに、

しつかり考えていく一年にしたいと考えています。

また、平素より当センターを応援していただいている多くの個人、団体の皆様、近隣の皆様、行政や医療・障害福祉関係者の皆様、そして何より入所利用者、地域の利用者とそのご家族の皆様との連携、協働を大切にしつつ、少しでも利用者の皆様の幸せに繋がるような支援を継続、発展させていきたいと考えています。

本年も、どうかよろしくお願ひいたします。



センター内配信イベント

島田療育センターニュース編集委員会

島田療育センターでは、音楽会や季節行事などを、利用者の生活に「変化」「楽しみ」「彩り」をもたらす重要な支援と位置づけて、長年にわたり暮らしに彩りと潤いを届けてきました。しかし、会場定員の制限、移動介助の負担、医療的ケアが必要な方の安全確保などの課題があり、誰もが平等に参加できるわけではありませんでした。そこで「会場に来られない人にも楽しんでもらう」方法として、2016年度にライブ配信システムを導入し、病棟やデイ、各居室からもイベントを楽しめる環境を整備しました。

コロナ禍では、この仕組みを活かして無観客配信やZoom・YouTube、録画配信へと発展させ、文化的・社会的な活動を途切れさせることなく続けることができました。利用者の皆様は会場や居室の画面越しに参加し、QOLの向上や社会的つながりの維持にも寄与しています。

今後は、機器運用ノウハウの共有、視聴環境の拡充、双方向性やオンデマンド視聴の検討、地域・教育機関

との連携を進め、重症心身障害児者の新たな社会参加の形として発展させていく方針です。



幹部職員による

新年・ちょっとひと言

お題は…

最近感じた“小さな幸せ”

藤井 康弘 理事長



うちの中学生と家族3人でMrs.GREEN APPLEのコンサート映画を観に行きました。子どもの楽しんでいる姿を見て、成長を感じました。

久保田 雅也 院長



13歳になる老犬（シェルティ、雄）を時々散歩に連れて行く。先代のシェルティは14才頃亡くなつたが、2代目はまだ歩ける。隣の家に迷惑をかけながらたまに吠えるのを聞いて安心している。

三山 佐保子 副院長



島田の窓から見える景色。春は桜でしたが、青空、秋の紅葉、夕焼け空のグラデーション、クリスマスのイルミネーション。裏山や中沢池公園方面の山の木々。

野村 健介 医務部長



家族で回転寿司に行った時に、子供たちが以前よりいっぱい食べたことです。回転寿司だと食べた量がお皿の枚数でわかりやすいですね。

落合 三枝子 療育局長



毎回帰宅時に全力で迎えに来てくれる我が家のワンズ、たとえ15分ほどの外出でも大歓迎で迎えてくれます。うれしそうな表情、仕草、いつもの光景に幸せを感じています。

高山 昌子 リハビリテーション部長



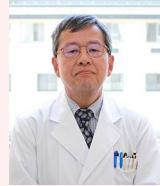
最近感じた“小さな幸せ”…家族と過ごす何気ない時間…
特別なことはありませんが、これからも大切にていきたいと思います。

木実谷 哲史 名誉院長



先日5歳の孫(女の子)が遊びに来た時、自分から進んで私(祖父)と手をつないでくれました。孫も成長して私の気持ちを汲んでくれるようになったかと思い小さな幸せを感じました。

高山 真一郎 副院長



23区内から車で通勤していますが、春は野猿街道の桜、秋は多摩センター通りの銀杏の紅葉、冬にはところどころから見える雪を頂いた富士山に癒やされています。

鮎澤 浩一 経営企画室室長



幼児期に広汎性発達障害・場面緘默と診断されて、長年フォローしてきた子が、大学を卒業して成人分野の言語聴覚士として就職し、元気にやっていると挨拶にきました。感無量です。

中村 由紀子 医務部長 兼 小児科長



20年ぶりにある疾患の患者家族会に参加しました。患者さんやご家族と一緒に弁当を食べ、健診の合間に子どもたちと触れ合う時間を過ごせたのが、最近感じた小さな幸せです。

森久保 真由美 事務局長 兼 支援部長



辛い思いをして生きてきた保護犬を2匹受け入れ、慣れてくれるのに時間がかかりました。
1年経って安心して寝ている姿、尻尾振って甘えてくる姿に、毎日幸せと癒しを感じます。

岸野 栄一 リハビリテーション部次長



家族旅行です。二人の子どもは、一応社会になりました。二人とも、大変そうですが、家族旅行には、日程を調整してくれます。遠くへ行くわけでもないのですが、子どもたち馴染みのある場所で、皆でのんびり過ごします。

